

吉野ヶ里町学校のあり方に関する提言書
(学校の適正規模・適正配置)

説明資料

令和6年3月15日

吉 野 ヶ 里 町

目 次

はじめに.....	1
1. 学校の現状.....	2
(1) 人口推移・将来推計	2
(2) 児童生徒数の推計	4
(3) 小・中学校の現状	7
(4) 地域における役割	13
(5) 小・中学校の現状のまとめ	14
2. 将来の小学校・中学校のあり方.....	15
(1) 求められる学校規模のあり方	15
(2) 学校の適正規模	15
(3) 学校の適正配置	16
3. 今後の学校の適正規模・適正配置にかかる提言.....	17
(1) 小学校のあり方	17
(2) 中学校のあり方	17
4. 学校の適正規模・適正配置を進めるに当たっての留意すべき事項.....	18
(1) 懇談会の設置	18
(2) 地域特性への配慮	18
(3) 通学手段の確保	18
(4) 学校経営の円滑な移行	18
(5) 情報の公開	18
(6) その他	19

はじめに

吉野ヶ里町では現在、町立小学校2校、町立中学校2校が設置されています。それぞれの学校は地域とともにあり、児童生徒、教職員、保護者、地域住民によって、特色ある教育活動が展開されてきました。

しかし、全国的な人口減少及び少子高齢化が進行する中で、本町において、学校の小規模化が進み、学校における教育活動、さらには学校運営など様々な面に影響を及ぼすことが懸念されています。少子化の波は、児童生徒の教育環境、学校教育機能を損なう恐れがあることから、学校の規模の適正化を図ることが喫緊の課題となっています。

このため、学校の適正規模及び適正配置について検討し、望ましい学校教育環境の整備に取り組むため、吉野ヶ里町学校規模適正化検討委員会（以下「委員会」という。）を設置し、「吉野ヶ里町立小中学校の将来を展望したあり方」について検討を行い、学校の規模及び適正化に関する基本的考え方並びに適正化に向けた具体的な方策について提言を行うこととなりました。

委員会では、町内小中学校の現状や今後の児童生徒数を推計するとともに、児童生徒の保護者、教職員、児童生徒（小学校5・6年生の全児童及び中学校1～3年生の全生徒）を対象としたアンケート調査を実施し、町民や関係者の意識の把握に努めながら、将来を展望した内容となるように審議を重ねてきました。

令和3年度から全5回にわたる議論を踏まえ、今般、本町の学校の適正規模・適正配置のあり方について提言を取りまとめるに至りました。この提言書が子どもたちにとって望ましい教育環境の整備に貢献し、より一層充実した教育を実現するための指針となることを望みます。

令和6年3月

吉野ヶ里町学校規模適正化検討委員会

1. 学校の現状

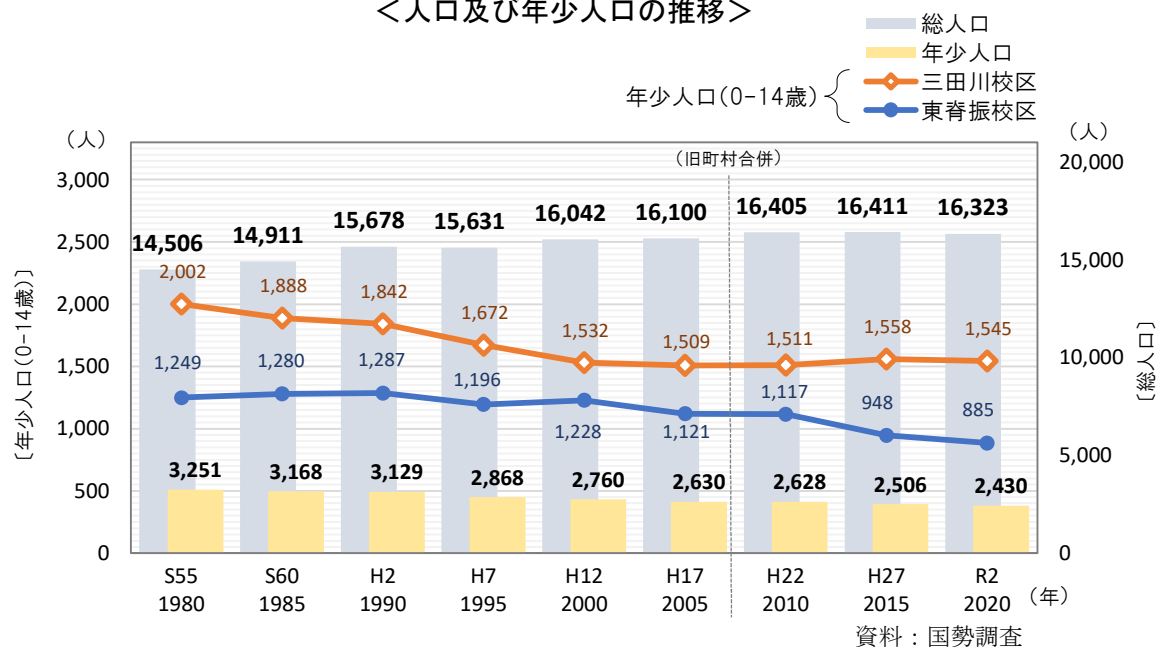
(1) 人口推移・将来推計

① 本町の人口推移

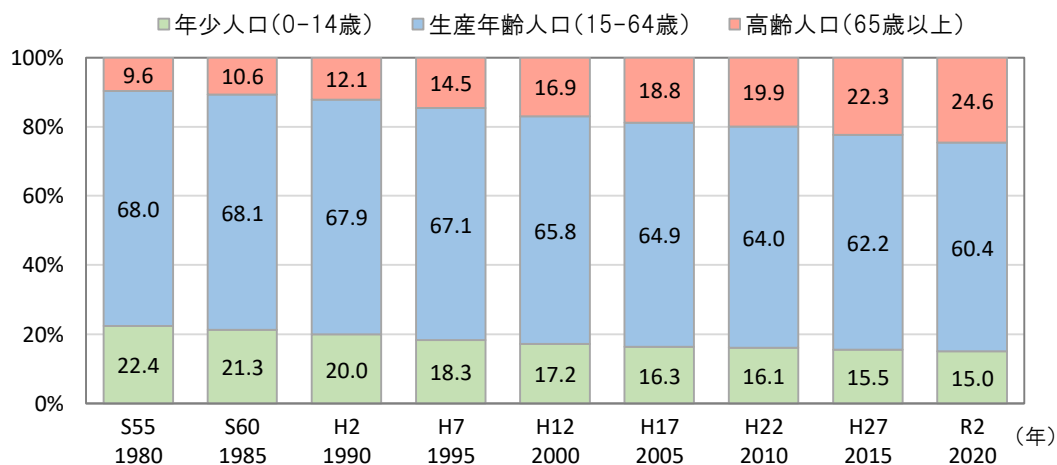
本町の人口は、昭和 55 (1980) 年から平成 27 (2015) 年にかけて増加を続け、令和 2 (2020) 年で減少に転じています。

3 区分別構成比をみると、昭和 55 (1980) 年から令和 2 (2020) 年にかけて、年少人口は 22.4%から 15.0%に減少する一方で、高齢人口は 9.6%から 24.6%に大きく増加しています。年少人口を地域別でみると、平成 12 (2000) 年以降では、三田川校区は横ばい傾向、東脊振校区は減少傾向にあります。

＜人口及び年少人口の推移＞

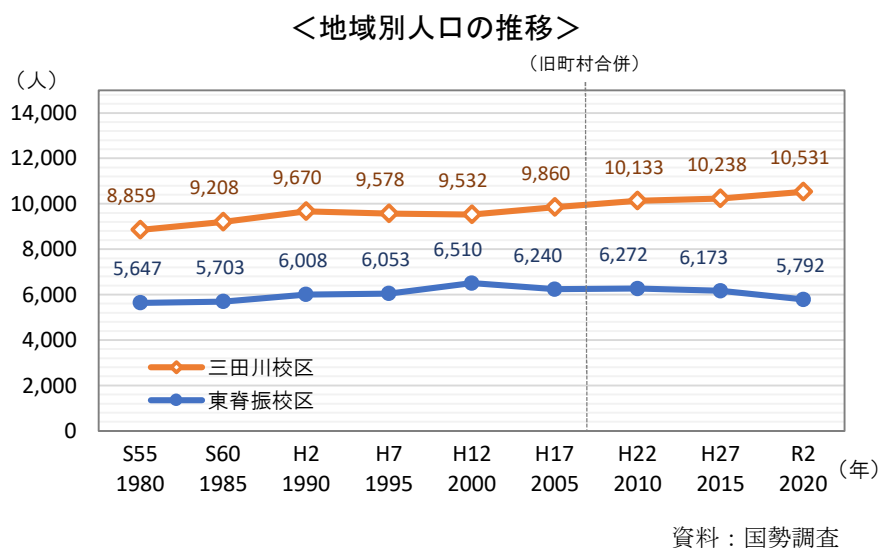


＜3 区分別人口構成比の推移＞



② 本町の人口分布

国勢調査による地区別の人口動向をみると、三田川校区は昭和 55（1980）年以降増加傾向にあります。東脊振校区は平成 12（2000）年以降は減少傾向にあります。

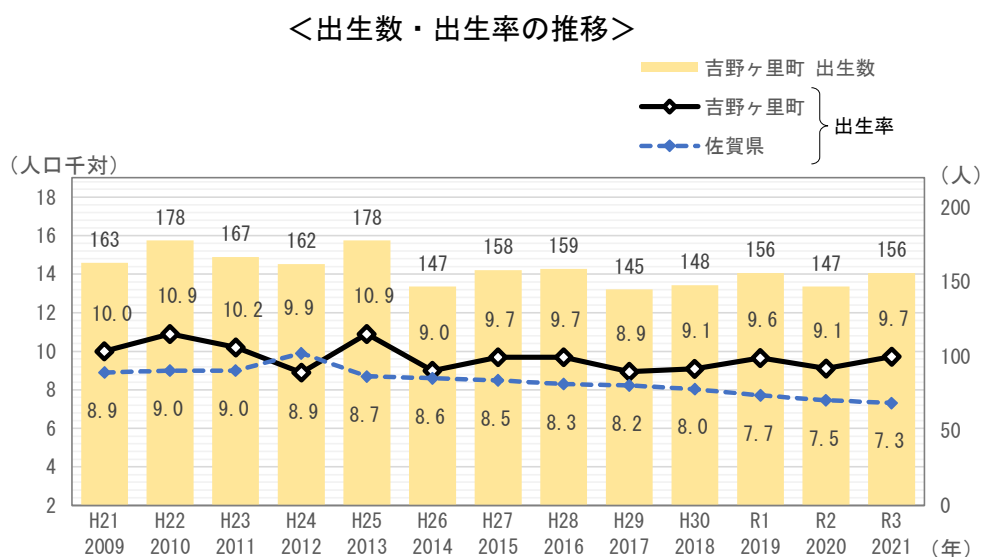


航空写真：地理院地図 GSI Maps

③ 出生率の推移

本町の出生数は、平成 25（2013）年から平成 26（2014）年にかけて大きく減少し、平成 26 年以降は横ばい傾向にあります。

出生率は、平成 24（2012）年に佐賀県平均よりも低い値になりましたが、平成 25（2013）年以降は県平均より高い値で推移しています。令和 3（2021）年の出生率は、佐賀県平均が 7.3 で、本町が 9.7 となっており、県内 2 位の数値となっています。

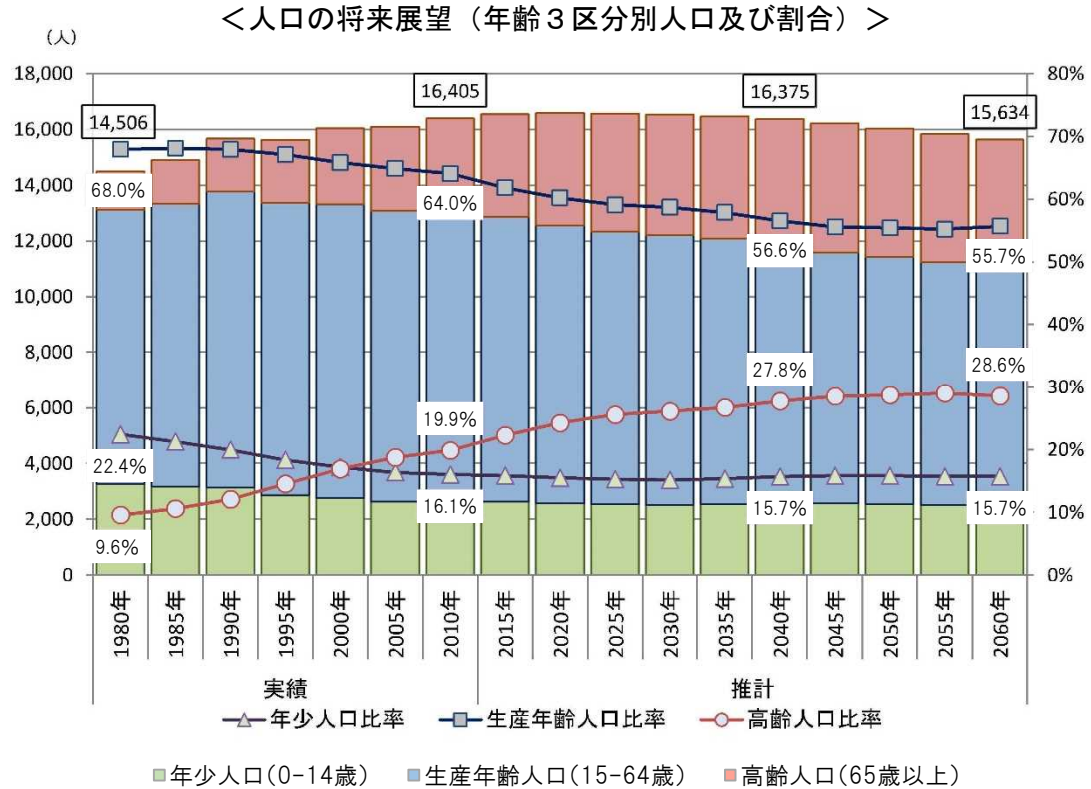


資料：統計情報（さが統計情報館）人口動態統計

※出生率：人口千人に対する 1 年間の出生数の割合

④ 本町の人口の見通し

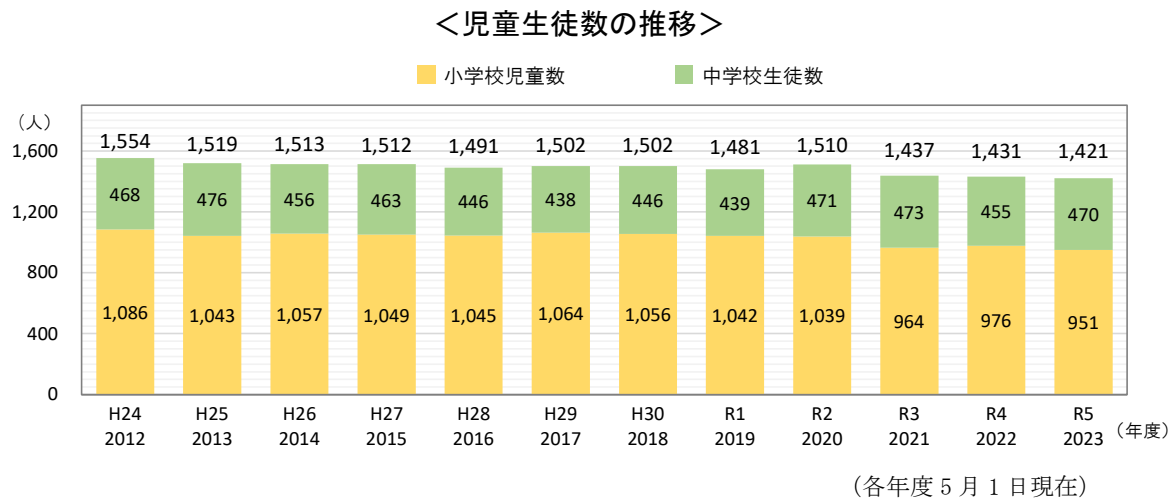
本町の年少人口は減少傾向にあります。一方で高齢人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進行することが見込まれています。



資料：吉野ヶ里町人口ビジョン（平成27年12月）

（2）児童生徒数の推計

町全体の児童生徒数の合計は減少傾向が続いています。小学校の児童数は減少傾向、中学校の生徒数はほぼ横ばいで推移しています。



① 小学校児童数の推移及び推計値

三田川小学校の児童数は増加傾向でしたが、今後5年間、ほぼ横ばいで推移すると推計され、学級数（※）は18クラス以上が維持されます。

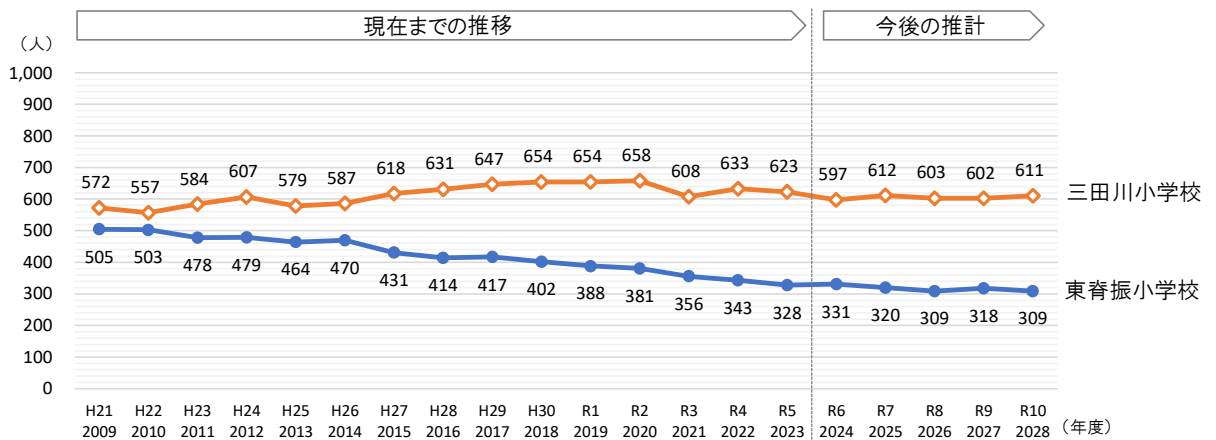
東脊振小学校の児童数は減少傾向にあり、今後も減少が見込まれています。学級数（※）は、今後11クラス以上が維持される見込みです。

＜小学校児童数の推移及び推計値＞

（年度、人、学級）

		2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10
三田川小	児童数	623	597	612	603	602	611
	学級数	18	18	19	19	18	19
東脊振小	児童数	328	331	320	309	318	309
	学級数	11	12	12	12	11	11
計	児童数	951	928	932	912	920	920
	学級数	29	30	31	31	29	30
	学級当たり	32.8	30.9	30.1	29.4	31.7	30.7

※学級数は通常学級のみ



資料：庁内資料、実績値は各年度5月1日現在、推計値は令和5年5月1日時点の未就学児童数から推計

② 中学校生徒数の推移及び推計値

三田川中学校の生徒数は平成 29（2017）年以降増加を続けていましたが、今後 5 年間で減少が見込まれます。しかし、学級数（※）は 9 クラスが維持されます。

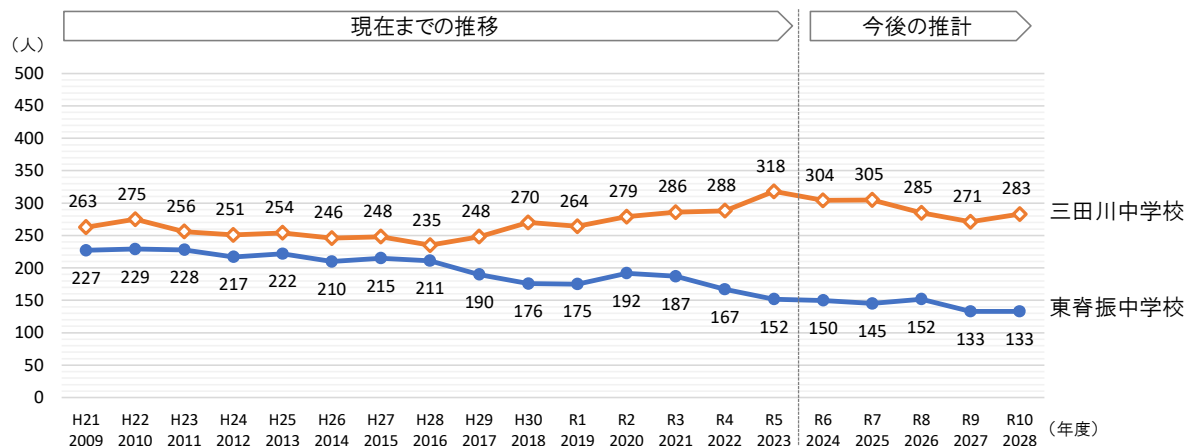
東脊振中学校の生徒数は減少傾向にあり、今後も減少が見込まれています。学級数（※）は 5 クラスまで減少する見込みです。

生徒数については、私立や県立の中学校に進学する児童を考慮し推計を行っています。

＜中学校生徒数の推移及び推計値＞

		(年度、人、学級)					
		2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10
三田川中	生徒数	318	304	305	285	271	283
	学級数	8	9	9	9	9	9
東脊振中	生徒数	152	150	145	152	133	133
	学級数	6	6	6	6	5	5
計	生徒数	470	454	450	437	404	416
	学級数	14	15	15	15	14	14
	学級当たり	33.6	30.3	30.0	29.1	28.9	29.7

※学級数は通常学級のみ



資料：庁内資料、実績値は各年度 5 月 1 日現在、推計値は令和 5 年 5 月 1 日時点の児童数から推計

(3) 小・中学校の現状

① 学校規模

小学校、中学校の校舎等の施設概要を下表に示します。

学校教育法施行規則では、適正な学校規模として小中学校ともに12～18学級（※）と定めており、現状の東脊振小学校、三田川中学校、東脊振中学校は小規模校となります。

<小学校、中学校の施設概要>

学校名	地区	学校所在地	児童 生徒数	学級数 (※)	教職員 数	規模	延床面積 (㎡)	校舎の設置年度
三田川小学校	吉田	吉野ヶ里町吉田63番地	623	18	41	適正規模校	8,359	昭和48年度 (1973年度)
	田手							
	豆田							
	箱川							
	立野							
東脊振小学校	松隈	吉野ヶ里町石動2760番地1	328	11	28	小規模校	5,665	平成18年度 (2006年度)
	石動							
	三津							
	大曲							
小学校計			951	29	69		14,024	
三田川中学校	吉田	吉野ヶ里町吉田303番地	318	8	23	小規模校	4,296	昭和46年度 (1971年度)
	田手							
	豆田							
	箱川							
	立野							
東脊振中学校	松隈	吉野ヶ里町石動2709番地	152	6	22	小規模校	4,595	昭和51年度 (1976年度)
	石動							
	三津							
	大曲							
中学校計			470	14	45		8,891	

令和5年7月現在

※学級数は通常学級のみ

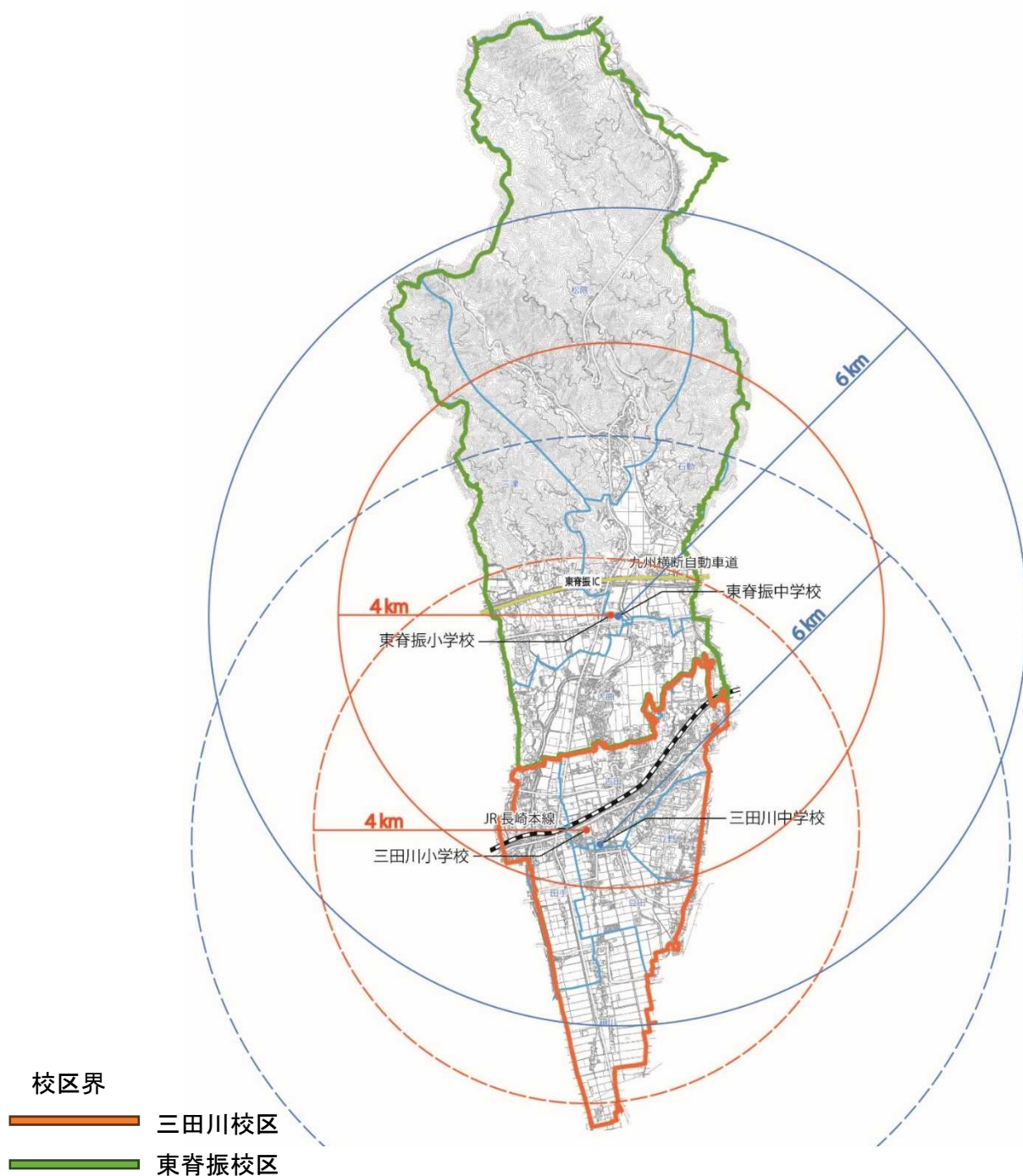
② 通学距離

国は、公立小・中学校の通学距離について、小学校でおおむね4 km 以内、中学校では、おおむね6 km 以内という基準（※）を定めています。（※公立小・中学校の建設費の国庫負担対象となる学校統廃合の条件）

現況では、下図に示すように小・中学校の全ての通学路が基準の範囲にあります。

さらに、三田川中学校と東脊振中学校の6 km 圏域は、大半のエリアが重複しており、三田川中学校の6 km 圏域から外れるのは北部の山間部のみとなっています。

＜小中学校の位置、校区＞



③ 沿革、建物履歴

三田川小学校、東脊振小学校とも設置は明治初期で、当時の旧村名で開校されました。現在の名称は、戦後の昭和 22（1947）年度からで、同時に学制改革によって、三田川中学校、東脊振中学校が開校しています。三田川小学校は、平成初期に大規模改修工事が行われており、東脊振小学校は、平成 18（2006）年度に新校舎が建築されました。

三田川中学校は、昭和 47（1972）年度に建築されたものであり、築後 51 年経過しています。東脊振中学校は、昭和 53（1978）年度までに建築されたもので築後 45 年経過しており、それぞれ大規模改修は実施されていません。

■三田川小学校

年度	内 容
S22	国民学校初等科を三田川小学校と改称し、高等科を同中学校と改称
S40	町制施行により三田川町立三田川小学校と決定
S46	プール完成
S48	新校舎工事起工式
S52	体育施設完成
H 4	校舎大規模改修工事第一期分（校舎西半分、内外装）工事終了
H 5	校舎大規模改修工事第二期分（校舎東半分、外装のみ）工事終了
H 6	校舎大規模改修工事第三期分（校舎東半分内装、プール外トイレの水洗化）工事終了
H17	町村合併により吉野ヶ里町立三田川小学校と名称変更

■東脊振小学校

年度	内 容
S22	学制改革により東脊振村立東脊振小学校と改称し、新制中学校が開校
S39	南校舎三分の二が解体、10 月着工、40 年 4 月末竣工、同年 6 月第 2 期工事に着工、12 月に竣工
S62	小学校体育館新築落成
H17	町村合併により吉野ヶ里町立東脊振小学校と名称変更
H19	プール完成
H26	体育館床改修工事（一部張替え、研磨、塗装）、玄関床改修工事（研磨、塗装）
H27	グラウンド改修工事（盛土、整地）
H30	体育館耐震化改修工事

■三田川中学校

年度	内 容
S22	学制改革により三田川村立三田川中学校を創立
S24	9 月新校舎落成式（5 教室）
S46	11 月新校舎建設起工式
S47	4 月新校舎に移転、8 月二期工事に着工、2 月全校舎使用
S62	8 月校舎改装工事
H17	町村合併により吉野ヶ里町立三田川中学校と名称変更
H24	4 月～10 月体育館大規模改修工事
H27	12 月～2 月グラウンド大規模改修工事

■ 東脊振中学校

年度	内 容
S22	学制改革により村立東脊振中学校を創立
S26	中学校校舎落成式
S29	東脊振中学校体育館落成
S51	改築校舎起工式
S52	校舎一期工事
S53	校舎二期工事
S53	体育館起工式
H16	校舎耐震補強工事
H17	町村合併により吉野ヶ里町立東脊振中学校と名称変更
H20	体育館耐震補強工事

④ 建物の状況

小中学校の施設の規模、築年数、現地調査から、学校別の建物の状況を整理すると次のように言えます。

<学校別建物の状況>

名 称	施設の状況
三田川 小学校	校舎は大規模改修工事を行っていますが、校舎の一部、プールの築年数が 50 年以上を経過しています。建替の時期は迎えていませんが、建物の長寿命化を図るための大規模改修が必要な状況となっています。 【現状】 ・ 外壁にひび、剥離があり、屋上における笠木の欠落がみられ、屋上防水層に経年劣化による亀裂があります。 ・ 天井の複数箇所に漏水跡があります。
東脊振 小学校	施設の多くが建築年 20 年未満であり、現時点では改修工事は必要とされません。 【現状】 ・ 運動場の水捌けが悪く、屋上の排水口に一部つまりがあります。
三田川 中学校	全ての校舎の築年数が 50 年以上を経過し、建替の時期を迎えています。 【現状】 ・ 壁面や床面に損傷があり、天井や壁から漏水による腐食がみられます。 ・ 調理室及び工作室の床材が劣化しています。
東脊振 中学校	主要となる校舎の築年数が 50 年に近い状況です。近く建て替え時期を迎えます。 【現状】 ・ 壁面や床面に損傷あり、3 階廊下天井に漏水跡があります。 ・ 合併浄化槽周りの地盤沈下により、コンクリート部分の破損がみられます。

【参考】吉野ヶ里町学校施設長寿命化計画

吉野ヶ里町学校施設長寿命化計画（令和2年度策定）において、建築後50年以上経過の建築は建替の対象、20年以上経過の建築は大規模改修の対象と設定しています。

■三田川小学校 凡例) : 50年以上経過 : 20年以上50年未満経過

建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度	教室数	現在の用途
校舎①	RC	3	2,658	1973	11	普通教室（4）/特支教室（4）/少人数教室（1） 通級指導教室（1）/多目的教室（1）
校舎②	RC	3	855	1975	7	普通教室（7）
校舎③	RC	3	590	1975	0	図書館、図工室、家庭科室など
校舎④	RC	3	1,198	1975	8	普通教室（7）/少人数教室（1）
格納庫	S	1	8	1975		
屋内運動場①	RC	2	1,534	2000		
屋内運動場②	RC	1	220	2000		
トイレ	S	1	6	2004		
プール	RC	1		1970		

■東脊振小学校

建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度	教室数	現在の用途
校舎	RC	2	4,835	2006	18	普通教室（12）/特支教室（5）/少人数教室（1）
屋内運動場	RC	1	700	1986		
機械室	RC	1	36	2006		
プール	RC	1	1,152	2007		

■三田川中学校

建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度	教室数	現在の用途
校舎①	RC	3	1,850	1971	6	普通教室（4）/総合学習室（1）/会議室（1）
校舎②	RC	3	256	1971	2	普通教室（2）
校舎③	RC	3	1,070	1972	6	普通教室（3）/特支教室（2）/多目的教室（1）
校舎④	RC	3	377	1972	0	図書館、パソコン室、音楽室など
技術室	S	2	430	1974		

■東脊振中学校

建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度	教室数	現在の用途
校舎①	RC	3	1,379	1976	6	普通教室（3）/特支教室（2）/多目的教室（1）
校舎②	RC	3	729	1977	2	普通教室（1）/生徒会室（1）
校舎③	RC	3	1,127	1993	2	普通教室（2）
屋内運動場①	S	1	286	1978		
屋内運動場②	S	1	772	1978		
体育倉庫	S	1	40	1993		
給食保管室	S	1	22	1980		
給食保管室	S	1	12	1999		
EV棟	RC	3	25	2006		

資料：吉野ヶ里町学校施設長寿命化計画資料を令和5年12月現在に修正

⑤ 部活動の状況

東脊振中学校は、部活動の種類と所属している部員の数、三田川中学校に比べて少ない状況です。希望する部活動がないため、三田川中学校、東脊振中学校のどちらでも入部できることを希望する保護者もみられます。（アンケート自由意見）

＜部活の有無、活動場所＞

凡例) ○：有り、網掛は部活無し

部名称	三田川中学校			東脊振中学校		
	有無	部員数	活動場所	有無	部員数	活動場所
軟式野球	○	15	グラウンド	○	10	グラウンド
ソフトボール（女子）	無し		－	○	11	グラウンド
ソフトテニス（男子）	無し		－	○	14	東脊振庁舎テニスコート
ソフトテニス（女子）	○	28	グラウンド	無し	－	－
バレーボール（男子）	○	21	体育館	○	11	体育館
バレーボール（女子）	○	17	体育館	○	13	体育館
陸上競技	○	20	グラウンド	無し	－	－
卓球（男子）	○	26	体育館	○	13	さざんか武道館
卓球（女子）	無し		－	○	12	さざんか武道館
バスケットボール（男子）	○	15	体育館	無し	－	－
バスケットボール（女子）	○	16	体育館	無し	－	－
剣道	○	14	三田川武道館	○	8	さざんか武道館
吹奏楽	○	32	音楽室・教室	○	12	音楽室
美術	○	31	美術室	無し	－	－

資料：教育委員会資料、部員数は、令和5年7月現在

(4) 地域における役割

① 地域活動

三田川小学校、東脊振小学校とも児童生徒が学校外に出て、地域の人々とふれ合う活動が行われています。

学校教育に支障のない範囲において町民が利用できるように、体育館・グラウンドの一般開放を行うなど地域活動の場を提供しています。

<児童生徒の地域活動>

年月	学校名	活動内容
令和3年2月	三田川小	4年生が地域の福祉体験
令和5年3月	東脊振小	吉野ヶ里歴史公園において集めたふたでモザイクアート
令和5年6月	三田川中	1年生が古代米「赤米」を田植え

資料：庁内資料

<学校施設の一般開放>

学校、施設名	内 容	使用時間
東脊振小 体育館	バレー（1面）、バドミントン（2面）	午前9時～午後10時
三田川小 体育館	バレー（2面）、バスケット（2面）、バドミントン（6面）	午前9時～午後10時
東脊振中 体育館	バレー（2面）、バスケット（2面）、バドミントン（6面）	午前9時～午後10時

資料：庁内資料

② 防災機能

三田川小学校、東脊振小学校、三田川中学校、東脊振中学校の全ての校舎、体育館が指定緊急避難所、指定避難所に指定されています。

指定内容	該当施設
指定緊急避難所 指定避難所	三田川小学校・体育館
	東脊振小学校・体育館
	三田川中学校・児童体育館
	東脊振中学校・体育館

資料：吉野ヶ里町 防災マップ

(5) 小・中学校の現状のまとめ

項 目		現状のまとめ
(1) 人口推移・将来推計		・今後、町の人口は減少し少子高齢化の進行が推計されます。 ・年齢別では年少人口の減少が推計され、三田川校区より東脊振校区の年少人口の減少傾向が強くなっています。
(2) 児童生徒数の推計 (今後5年間)		・三田川小学校は、18クラス以上が維持され、東脊振小学校は、11クラス以上が維持されます。 ・三田川中学校は、9クラスが維持されますが、東脊振中学校は、5クラスまで減少する見込みです。
(3) 小・中学校の現状	①学校規模	・国の基準では、東脊振小学校、三田川中学校、東脊振中学校は小規模校となります。
	②通学距離	・小・中学校の全ての通学路が基準の範囲にありますが、三田川中学校と東脊振中学校の6km圏域は、大半のエリアが重複しています。
	③沿革、建物履歴	・三田川小学校は、平成初期に大規模改修工事が行われています。 ・東脊振小学校は、平成18(2006)年に新校舎が建築されています。 ・三田川中学校は、昭和47(1972)年に建築され、築後51年経過しています。 ・東脊振中学校は、昭和53(1978)年に建築され、築後45年経過しています。
	④建物の状況	・三田川小学校は、建物の長寿命化を図るため、大規模改修が必要です。 ・東脊振小学校は、築年数が20年未満で改修工事は不要です。 ・三田川中学校は、改修は難しく、建替の時期を迎えています。 ・東脊振中学校は、改修は難しく、近く建替時期を迎えます。
	⑤部活動の状況	・東脊振中学校は、部活動の種類と所属している部員の数、三田川中学校に比べて少ない状況にあります。
(4) 地域における役割	①地域活動	・三田川小学校、東脊振小学校とも児童が地域の人々とふれ合う活動が行われ、町民へ体育館・グラウンドの一般開放などにより地域活動の場を提供しています。
	②防災機能	・三田川小学校、東脊振小学校、三田川中学校、東脊振中学校の校舎、体育館が指定緊急避難所、指定避難所に指定されています。

2. 将来の小学校・中学校のあり方

「吉野ヶ里町学校規模適正化検討委員会」の協議、「町民等意向調査アンケート」、前項の「小・中学校の現状」に基づき、さらに「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」（平成 27 年 1 月 27 日 文部科学省）を踏まえて、本町の将来の小学校・中学校のあり方について整理します。

（1）求められる学校規模のあり方

① 学校教育環境

- ア 児童生徒が多様な意見にふれることのできることを
- イ 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができることを
- ウ 児童生徒同士の間関係や児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編成ができることを
- エ 仲間同士で切磋琢磨する環境を作ることができることを
- オ 教育に支障のない教室数を確保すること

② 指導体制

- ア 学年内での教員の役割分担による専科指導等の多様な指導形態をとることができることを
- イ 児童生徒の特性を把握し、各学級に振り分け、きめ細かな指導ができることを
- ウ ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法がとれることを

③ 学校経営

- ア 経験年数、専門性等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が図られることを
- イ 教職員一人当たりの校務負担を軽減し、校内研修や他校での研究協議会などに参加できることを
- ウ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応できることを

（2）学校の適正規模

① 小学校

人間性・社会性の育成の面、学習効果の面から、全学年でクラス替えを可能とし、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成し、同学年に複数教員を配置するためには、1 学年 2 学級以上（通常学級計 12 学級以上）あることが望ましいと言えます。

② 中学校

全学年でクラス替えを可能とし、さらに、5教科（国語・社会・数学・理科・英語）に複数の教員、実技系教科（音楽・美術・保健体育・技術・家庭）に正規の教員を配置できるように、9学級（各学年3学級）以上を確保することが望ましいと言えます。

（３）学校の適正配置

国では、公立小・中学校の通学距離について、小学校ではおおむね4 km 以内、中学校ではおおむね6 km 以内という基準（前8頁参照）が定められているため、これに基づき学校を配置することが望ましいと言えます。

これにより遠距離通学となる場合は、スクールバスなどの対応策を検討する必要があります。

3. 今後の学校の適正規模・適正配置にかかる提言

将来の小学校・中学校のあり方を踏まえ、小学校、中学校の適正規模・適正配置に向けて次のように提言します。

(1) 小学校のあり方

三田川小学校は、将来 18 クラス以上が維持され、東脊振小学校は、11 クラス以上が維持されること、また、それぞれ地域との結びつきが強く、災害時の避難所等の役割を有していることから地域コミュニティの中核的な場所として、今後もそれぞれ三田川小学校、東脊振小学校の維持が望ましいと提言します。

さらに、三田川小学校は、老朽化が進んでいるため、今後、建替も含めて検討が求められます。

(2) 中学校のあり方

三田川中学校は、今後も 9 クラスは維持されますが、校舎等は既に建替が求められており、東脊振中学校は、現状 6 クラスで今後 5 クラスまで減少することが見込まれることから、適正規模を確保するために統合が求められます。

また、両中学校の通学圏域（6 km）には重なる部分が多く、部活動など生徒が希望する充実した学校生活を実現するためにも、三田川中学校と東脊振中学校は統合することが望ましいと提言します。

4. 学校の適正規模・適正配置を進めるに当たっての留意すべき事項

学校の適正規模・適正配置を進めるに当たって、保護者や地域住民の理解と協力が必要なことから、次のことに留意して進める必要があります。

(1) 懇談会の設置

学校の適正規模・適正配置を進めるに当たって、校区を単位として地域住民代表、PTA代表、学校関係者等による懇談会等を設け、意見を求める必要があります。

(2) 地域特性への配慮

地域社会の教育力が児童生徒の健やかな成長の一助となっており、学校は、地域の防災拠点であるとともに、地域の伝統、歴史文化を継承していく場としての役割を果たしています。

学校の統廃合は、地域及び保護者への丁寧な説明を行い、理解を得たうえで慎重に進める必要があります。

(3) 通学手段の確保

学校の統廃合により、中学校の学校区が広くなり通学距離が長くなる場合は、安全確保や生徒の体力の観点から必要に応じてスクールバスの運行等、通学手段の確保の検討が必要です。

(4) 学校経営の円滑な移行

学校が統廃合された場合には、生徒たちの新しい学校生活が順調にスタートできるように入念な準備を行うことが求められます。

地域や学校の特性が異なる生徒同士が合流することにより生じる新しい環境へのストレスを少しでも緩和できるように事前の学校間の交流等の配慮が必要です。

(5) 情報の公開

学校の適正規模・適正配置等に関する情報は、該当者である児童生徒及びその保護者をはじめとして、広く町民に提供することが求められます。

今後、意見を求めるためにも、検討過程や決定事項について、町のホームページや広報紙、PTA、地域の懇談会等を通じて、随時、一般に公表し、理解と協力を得て進める必要があります。

（６）その他

子どもたちのより望ましい教育環境を提供するため、学校、教育委員会、吉野ヶ里町、地域社会のそれぞれの取組を期待します。